

昔おきなわ風景探索

沖縄県公文書館所蔵の写真と空中写真

Q. どこでしょうか？

1945年5月



(写真番号：75-04-4 をカラー処理)

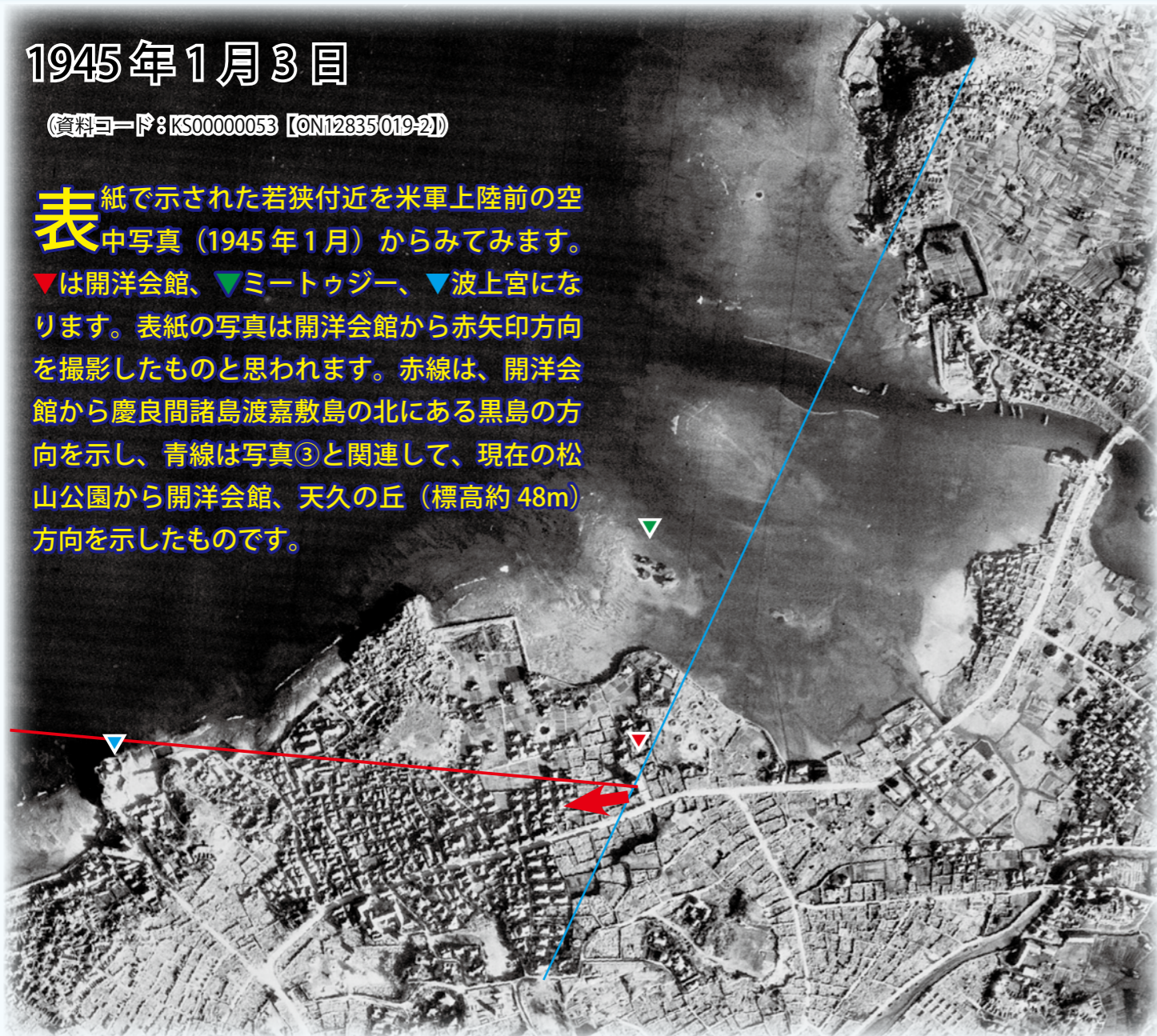
A. 那覇市若狭

沖 縄戦の最中の那覇の街。手前には屋敷囲いの石垣がみえます。その背後には瓦屋根の家がまだ残っていますが、屋根に砲弾跡と思われる穴がみられます。立派な家屋敷があったことが想像されます。その後方は高台になっており、拡大すると▼鳥居がみえます。さらに遠方をみると、島影がぼんやりとみえます。慶良間の島々です。▼の島影は、黒島のようなようです。どうやら三階建ての開洋会館*から若狭方面を撮影した写真のようです。

1945年1月3日

(資料コード: KS00000053 [ON12835019-2])

表紙で示された若狭付近を米軍上陸前の空中写真(1945年1月)からみてみます。
 ▼は開洋会館、▼ミートウジー、▼波上宮になります。表紙の写真は開洋会館から赤矢印方向を撮影したと思われる。赤線は、開洋会館から慶良間諸島渡嘉敷島の北にある黒島の方
 向を示し、青線は写真③と関連して、現在の松山公園から開洋会館、天久の丘(標高約48m)方向を示したものです。



写真① 表紙の写真(左側:1945年5月)に別の写真(右側:1945年6月28日)を接合しました。撮影月や撮影位置が異なるようですが、大きな変化はみられません。右側写真には開洋会館の壁が写りこんでいます。(写真番号:75-04-4,74-33-4を接合)

1945年12月10日



写真② 前頁で示された若狭付近を1945年12月10日撮影の空中写真からみてみます。前頁と同じく▼は開洋会館、▼ミートウジー(夫婦岩/夫婦瀬)**、▼波上宮になります。表紙に写されていた開洋会館の若狭付近は、敷きならされて広場になっており、戦禍から逃れ、残っていた民家は跡形もありません。ほとんど米軍の施設でおおいつくされています。(写真番号:AP451210A0_027)



写真③ 開洋会館の背後には天久の丘があるようです。前頁の空中写真で直線を引いて調べると、現在の松山公園の北側から写っているようです。(1945年5月29日)(写真番号:87-39-2)



写真④ 旧若狭町大通りを西側からみた写真で、中央付近の建物は開洋会館。この通りはかつて、電車の軌道が通っていました。(1945年5月)(写真番号:88-32-4)



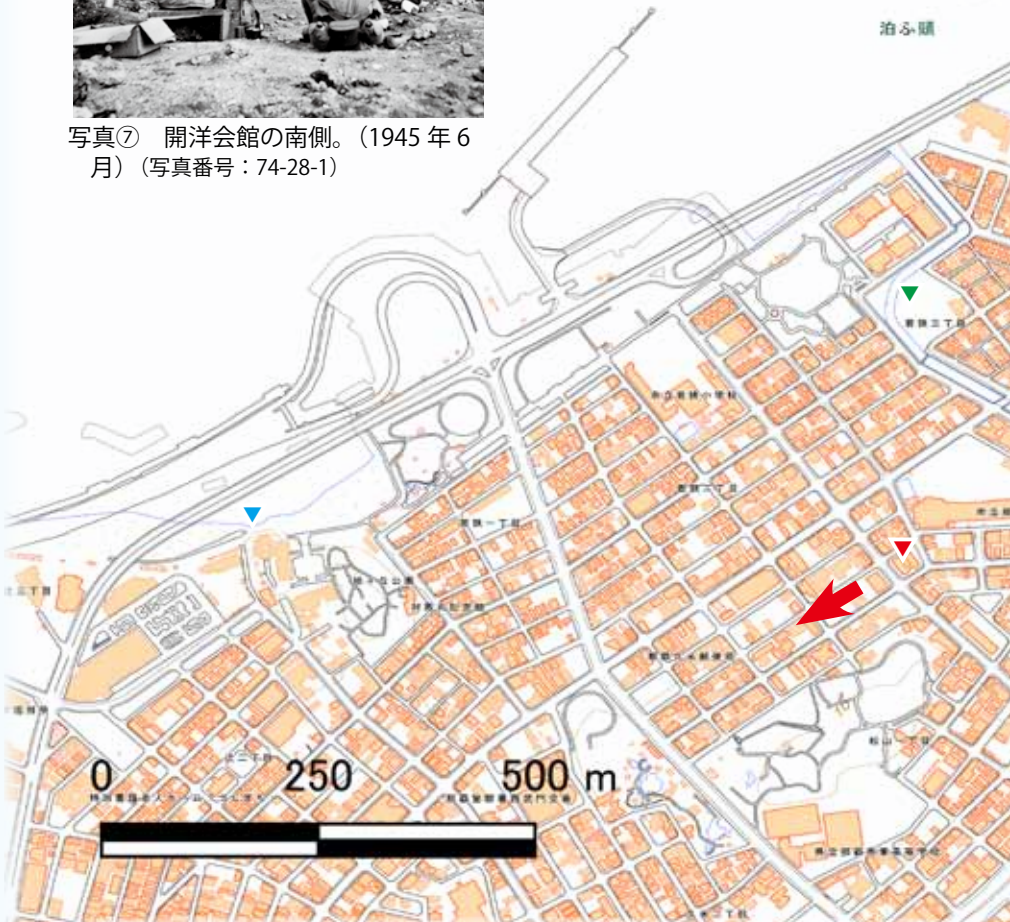
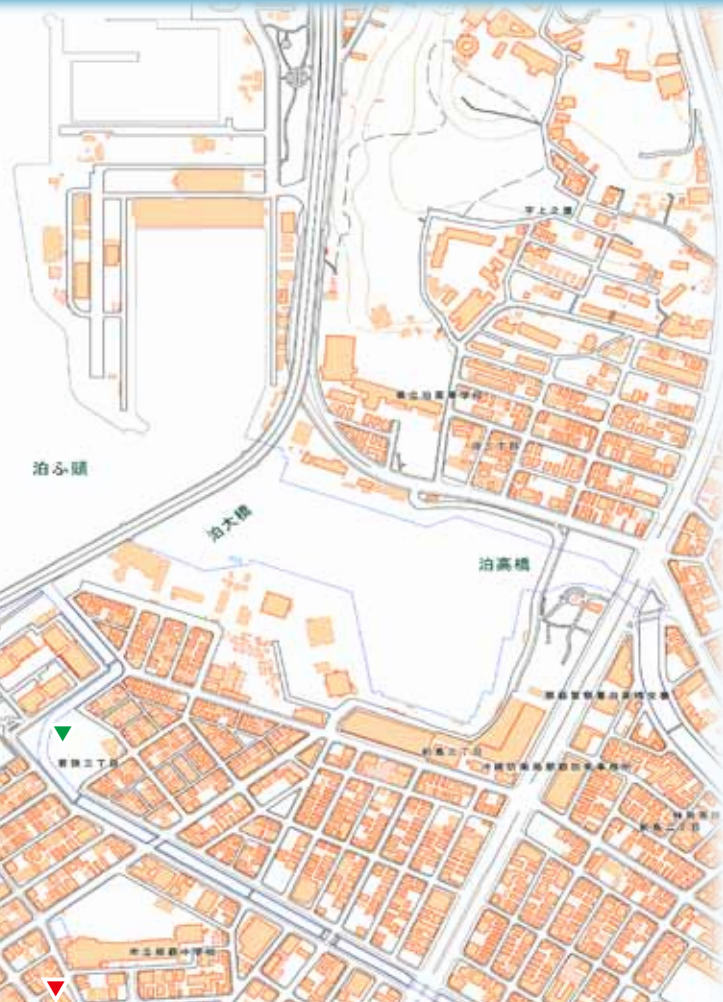
写真⑤ 旧若狭大通りを東側からみた写真。道路はきれいに舗装されています。(1945年5月29日)(写真番号:72-34-2)



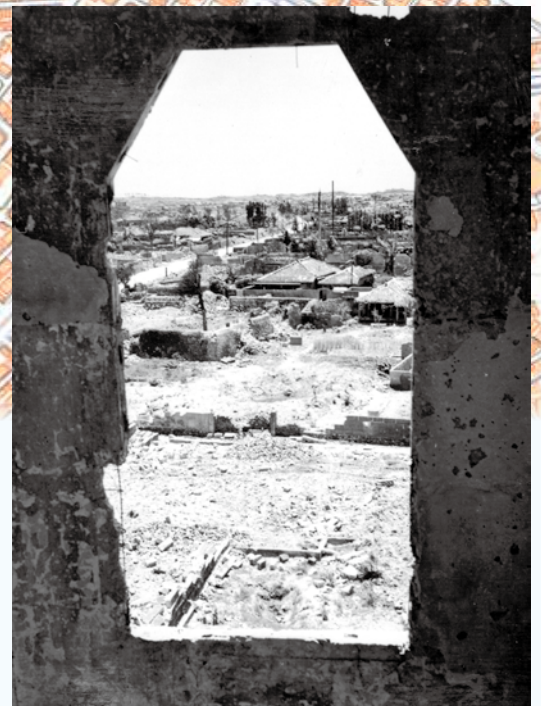
写真⑥ 旧若狭大通りを東側からみた写真。右側に開洋会館の玄関が見えます。(1945年)(写真番号:02-45-4)



写真⑦ 開洋会館の南側。(1945年6月) (写真番号: 74-28-1)



前頁の矢印の位置を現在の標準地図（国土地理院）に落としてみました。地図上の矢印や三角印は空中写真とほぼ同じ位置になります。写真⑧は、表紙の写真と同じく開洋会館からの眺めで、表紙の写真よりも少し離れた右側の窓から撮影しているようです。



写真⑧ 開洋会館の窓からみた若狭。(1945年5月) (写真番号: 74-37-2)

注 * 那覇市史 1979『那覇の歴史民俗地図』
 ** 「角川日本地名大辞典」編纂委員会 1986『角川日本地名大辞典 47 沖縄県』

昔おきなわ風景探索 No. 18

発行日: 令和8年(2026)3月13日
 編集執筆: 当山昌直(1951年生)
 発行: (公財) 沖縄県文化芸術振興会 公文書管理課
 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町新川148-3 沖縄県公文書館内
 電話 (代表) 098-888-3875 FAX: 098-888-3879

沖縄県公文書館デジタルアーカイブ

アメリカ統治下にあった頃の写真や空中写真を公開しています。

